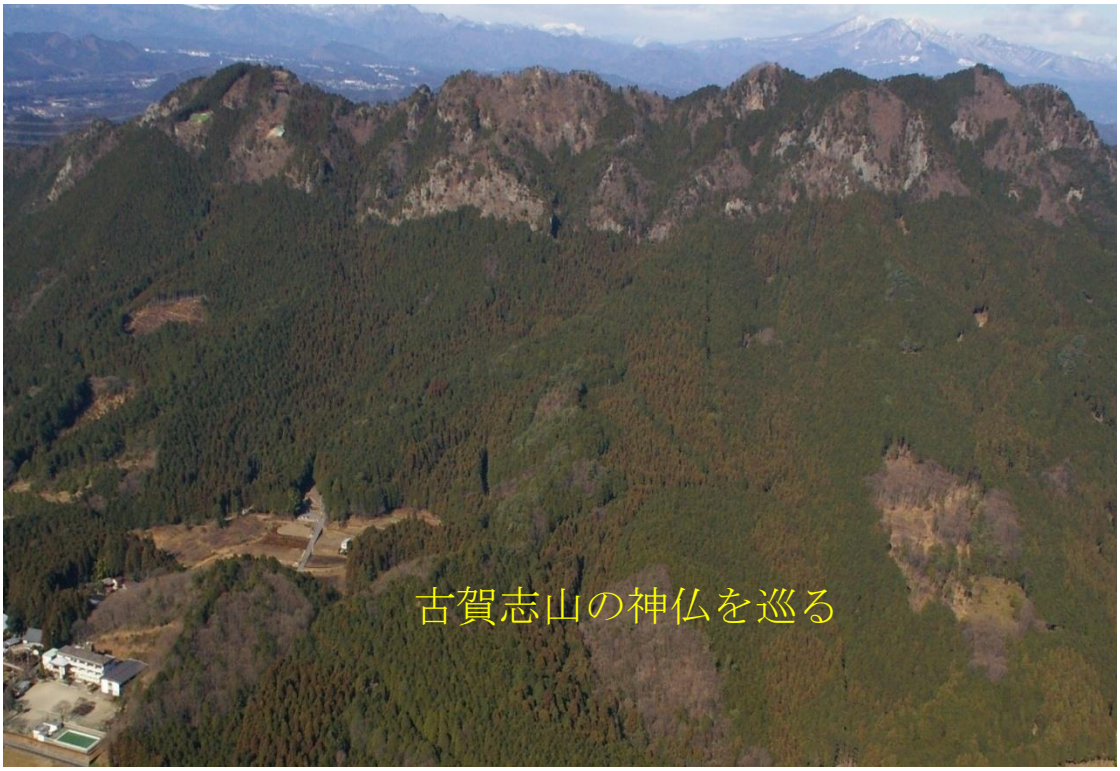
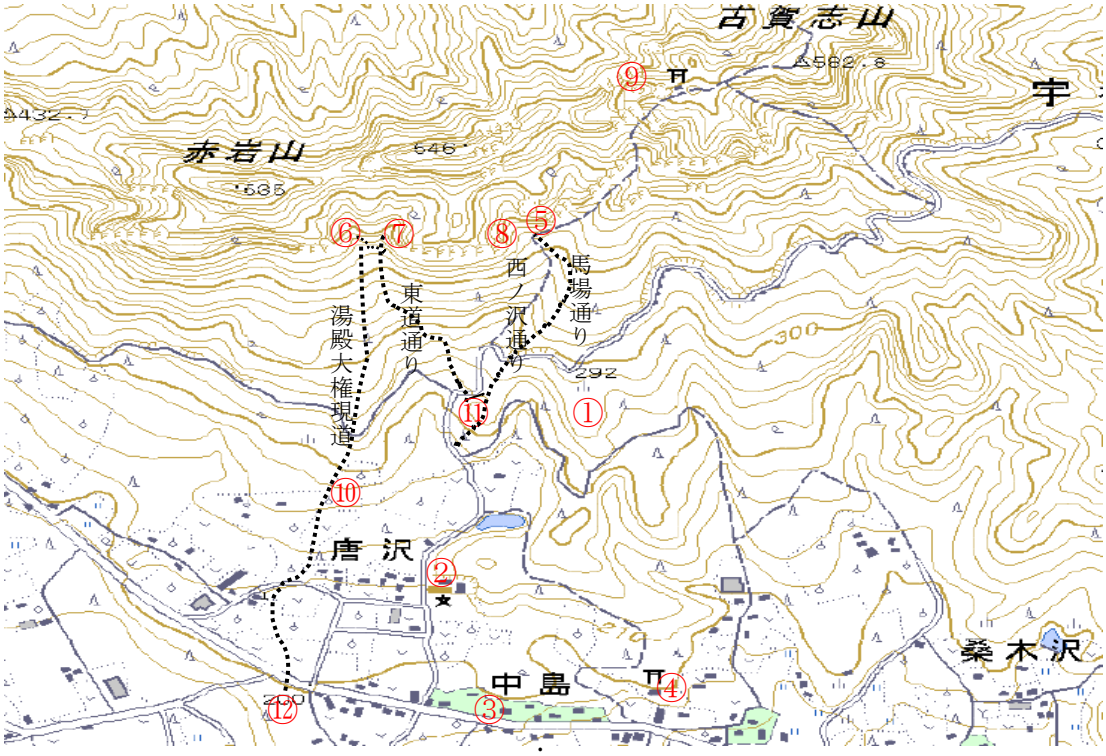


（空写　田野辺勝美氏）



①伊釜山②宮内元屋敷③中嶋北條家④日吉山王⑤瀧大権現⑥大日窟⑦荒沢不動⑧弁天様⑨御嶽山⑩湯殿大権現石鳥居⑪瀧大権現石鳥居⑫権現山

古賀志村の歴史概略

長治元年（一一〇四）　伊釜山の高子屋に日吉山王七社を勧請する。「石清水八幡大神宮　源家之主神、当家之氏神」

天仁元年（一一〇八）　山腹の七大杉北に日光山瀧尾大権現を勧請す。

元永二年（一一一九）　稲荷山に山城国稲荷山の神を勧請稲荷大明神　字いなり

正治元年（一一九九）　北條氏、高子屋に居住する。

永仁元年（一二九二）　宇都宮下野守景綱公出陣、北條縫之助御出陣の列に加わる。

応長元年（一三一一），「古橿」を「古賀志」に改める。

応永二年（一三九五），弘蔵院祐尊法印開基す。

長禄三年（一四五九）　北條縫殿助、唐沢に引越し居住す。

天文年中（一五三二～一五五四）鹿沼六十六郷に権現塚。

天正十三年（一五八五）　世に云う「古賀志ノ合戦」の節、「日吉山王ノ社頭、民家迄不焼払」

天正十四年（一五八六）　北條宮内伯通の愛娘早世す。屋敷前に観音堂建立す。花蔵坊という坊さんを守護役に置く。

文禄元年（一五九二），堀之内に板碑供養塔建立

文禄年中（一五九二～一五九五），「山ノ峯」に日吉山王を再建。神主大柿之修理

慶長五年（一六〇〇），北條宮内伯通、関ヶ原にて討死す。家士が宮内伯通の御首を持ち帰り、「唐沢ニ宮内首ヲ葬ル」、

慶長六年（一六〇一），北條三兄弟（丹後通記、僧了範、五郎兵衛）が中嶋に移住して百姓となる。

慶長年中（一五九五～一六一四），宇都宮城主奥平家昌公の御代、七大杉の内、六本伐採、一本残る。

元和元年（一六一五），市場星宮、西稲荷の星宮を勧請す。

元和六年（一六二〇），観音堂を滝下に移築する。

承応年中（一六五二～一六五四），花蔵坊を花蔵院に改。

貞享四年（一六八七）、大水にて観音堂流出する。唐沢川左岸に観音堂建立、下野札所二十五番に入る。

元禄四年（一六九一），大日窟再興、岩崎の百姓石碑建立。

元禄十三年（一七〇〇），古賀志村は上古賀志村（二六八石）と古賀志村（二七〇石）とに分村す。

元禄十五年（一七〇二），上古賀志村日光神領になる。

宝永元年（一七〇四），古賀志村が、下組（二〇〇石）と中組（七〇石）とに二分される。

宝永七年（一七一〇），「正一位瀧権現」の宗源宣旨を受く。

正徳元年（一七一一），黒石山の古賀志石採掘始まる。

享保六年（一七二一），大日窟へ出羽湯殿山を勧請する。

享保十一年（一七二六），瀧大権現の石鳥居建立す。

享保十三年（一七二八），花蔵院造立される。弘蔵院別当。

享保十七年（一七三一、宥清法印、花蔵院に隠居。
元文二年（一七三六），観音堂を花蔵院近くに引き移す。
正観音像奉納する。
明和六年（一七六九），市場星宮に石鳥居を建立す。
安永九年（一七八〇），瀧権現の社、落石に破損、東の岩窟に移す。
天明元年（一七八一），「大日窟」への「東道通り」整備。
天明四年（一七八四），湯殿大権現の石鳥居建立。
天明五年（一七八五），内倉山より野火発生、瀧権現の御神木一本杉焼け落ちる。
天明八年（一七八八）、権現山に湯殿大権現道の道標建立
寛政元年（一七八九），文太夫伯昌、丹後塚築く。
同年八月、岩窟内の瀧権現の社。修理のため下遷宮。同年九月晦日、岩窟に正遷宮。
寛政五年（一七九三），北條文太夫伯昌、傘寿を祝う。
「孝子献杯喜悦顔」と「孝子」の名が登場する。
寛政十年（一七九八），野火により観音堂、花蔵院焼失す。
唐沢八軒焼失す。
寛政十一年（一七九九）、花蔵院再建される。
文太夫伯昌没、弔文に「孝子の許」
寛政十四年（一八〇二），観音堂再建される。
享和三年（一八〇三），花蔵院に新しい観音像奉納す。
文化四年（一八〇七），瀧大権現の「社」、修復のため大杉北に仮遷宮する。
文化十二年（一八一五）、修覆なり「社」を岩屋に遷宮す。
文化十三年（一八一六）、大風により岩より杉木落下し「社」破損する。遷座を繰り返し訴訟が起こる。
文政二年（一八一九）、評定所より裁定下り、瀧大権現の社、岩窟に正遷宮。
文政六年（一八二三）、常火屋再建。
弘化四年（一八四一）、中ノ鳥屋に木曾御嶽山の勧請。
安政三年（一八五六）、實應法印、湯殿大権現の道標に二基の句碑建立（湯殿大権現鳥居、東道通り）
明治五年（一八七二）、新堀開通、「新開」拓く。
明治六年（一八七三）、弘蔵院廃寺に伴い、別当花蔵院廃寺、唐沢観音堂は取り壊し、花蔵院のみ残る。
明治八年（一八七五）、元花蔵院、「學貫舎」の教員室に。
大正十一年（一九二二）、「愛郷歌古賀志めぐり」ができる。
孝子桜の樹齢を「歳五百」と詠む。
昭和七年（一九三二）、元花蔵院を日吉神社拝殿に移築。
昭和二十七年（一九五二）、「孝子桜」の樹高半折する。
昭和三十四年（一九五九）、「孝子桜」、天然記念物の市指定を受く。「樹齢約四百年」
昭和四十四年（一九六九）、エドヒガン桜伐採
昭和四十八年（一九七三）、「孝子桜」の民話が創作される。

一　瀧大権現

男滝（おたき）の懸かる岩窟に瀧大権現の社を祀られている。日光山瀧尾大権現を勧請したことに由来する。御崎と中当山の間に懸かる男滝の源頭部に雨乞石（※当日現地確認）がある。『家傳記三』によれば、その勧請は、平安時代天仁元年（一一〇八）に遡る。※雨乞石は中当山の上部にある。

瀧大権現が、現在の岩窟に落ち着くまでには、遷宮を繰り返した経緯がある。

最初の勧請された場所は、現在の岩窟の中ではなく、中当山の南斜面、七大杉の聳える北斜面であった。

「是迄ハ大杉ノ北ノ方ニアリ」の記述が残る。

この七大杉を御神木と崇め、その北側の斜面窪地に「小社」を祀り、そこに日光瀧尾大権現を勧請したのが始まりである。

長い歳月が過ぎた。慶長年中、奥平家昌の御代、この七大杉の内、六本が伐採された記述がある。一本の大杉だけが残された。男瀧それ自体が御神体である。瀧に上る石段も元禄七年（一六九四）に整備された。寛永七年（一七一〇）には、宗源宣旨「正一位瀧権現」の神位を受けた。

享保十一年（一七二六），「馬場通り」の参道整備がなされ、同年、古賀志石の石鳥居が奉納された。

安永九年（一七八〇），中当山の岩が崩落し「社」を直撃、「安永九年庚子四月廿二日修覆シ東ノ岩窟ニ宮ヲ迂ス」とあり、大杉の北にあった「社」は，岩窟に遷宮された。これが遷宮の始まりである。その後、岩窟と大杉北の窪地との往還を繰り返す。（年表参照）。現在地に落ち着くまでには、度重なる遷宮に負担を感じた氏子の中から文化年中には訴訟が起こった。

文政七年（一八二四）の『瀧大権現神事祭禮記』が残っている。嘗ては旧暦一月十四、十五の両日行われ、中嶋・唐沢の氏子が、本社の他に十三カ所の拝所に供え物を供えた後、神事を行った。その伝統は今も残り、一月の第二日曜に行われている。　瀧下の棚部には、昭和初期まで九尺二間の修行小屋があった。瀧下の石を「修行石」と呼んだ。里山伏の修行の場で、嘗て瀧下に不動明王石像があったが盗難に遭った。当所、瀧権現の末社弁財天は、※護摩壇の岩下にあった。（※現地にて説明）

二　御嶽山

古賀志山主稜線の中央のピーク御嶽山を地元では単に「頂上」と呼ぶ。ガイドブックに「御岳山」の字を充ててあるのは間違いである。幕末期の弘化三年（一八四六），木曽の御嶽山を勧請した経緯がある。頂上直下の岩窟にあった「アルマヤ堂」跡はその名残である。昭和二十年代まで、この御堂には天狗の像が奉納されていた。その名の由来は木曽御嶽山のピーク「アルマヤ天」を摸したものだ。

明治時代の中頃、長岡藩出身の米山治平が、御嶽信仰を中興した。岩屋にある弘法大師の石像を奉納したのも同氏である。岩屋には「宇都宮三寶講」の人たちが同氏の顕彰碑を建てた。岩窟内に霊水がある。尚、アルマヤ堂は昭和二十年代に崩壊し、天狗像は修理に出したまま不明。

ここ御嶽山の勧請は、往古の村民が古賀志山の神仏を祀った歴史に比べて、幕末期まで下り新しい。

三　古賀志山（こがしさん）

「古賀志山」と書いて「こがしさん」と読むピークがある。

古賀志山主稜線から最前線に張り出した前衛岩壁を指す。往古の人たちは、この西側に派生する観音岩から麓に下る長い尾根を「山ノ神」降臨の道と見做していた。ピークに「古賀志山大神（こがしさんおおみかみ）」を祀った石祠がある。

総称して「古賀志山」と云う場合は、古賀志山主稜線及び前面に張出す前衛岩壁南面から麓に下る山麓一帯を指す。宇都宮市に町村合併する以前は、東の森林公園一帯は古賀志村ではなく福岡村細野であった。従って今日、森林公園から入山する東稜コース、中尾根コース、北尾根コースの区域は，「細野山」と称した。細野の人たちは中尾根に神仏を祀った。

四　猪落（ししおとし）

猪落は古賀志山主稜線から南に張り出した細い稜線の先端部であり小字名でもある。これに「獅子落し」の字を充てるのは間違いである。圧巻は「対面岩」の奇岩である。尚、地元には「モアイ像」などの名称は元々存在しない。

往古の人たちは、岩下の岩窟（猪穴）には神仏を祀らなかった。この猪落の絶壁自体を御神体と見做し対面岩に畏敬の念を抱いたのである。

この猪落の岩壁の付け根から「こがしさん」の大岩壁南面の付け根をトラバースして観音岩から滝大権現(男滝)に至り、中当山の岩下を抜け、女滝、弁財天をめぐり、更に「背中当山」の岩下をトラバースして荒沢滝、大日窟に至る参道を「岩下道」と呼んでいた。

五　観音岩

古賀志山（こがしさん）から西側に派生する尾根の先端部が観音岩である。この名の由来は、岩下の小さな岩窟に二基の不動明王に護衛された聖（しょう）観音（正観音（しょうかんのん））があるからである。

奉納は享保十年（一七二五），長岡傳左衛門によって奉納された。瀧神社のお祭りの拝所の一つである。この南斜面一帯は長岡家から寄進されたので「寄進山」の名が残っている。石仏の石質は古賀志石、石工は地元の北條甚内家である。尚、地元には「マラ岩」などの名称はない。

六　女瀧

古賀志山三瀧の一つ女瀧は、中当山の西側にある。当初、この瀧下に天狗宮が祀られた。寛延元年（一七四八）のことである。瀧下に不動明王立像がある。

明和二年（一七六五）に岩上から大木が落ち、小社が破損

したため、弁財天の岩窟に移された経緯がある。現在、弁財天に天狗宮があるのは、このためである。

七　弁財天

背中当山の大岩壁東側の付け根に大きな岩窟があり、弁財天が祀られている。当初、滝大権現の護摩所の下にあった中嶋北條家丈の守護神弁財天を享保十年（一七二五），この地に移したのは北條伯記である。また、弁財天の地には、呼称「風穴」がある。安永四年（一七七五），「雷神風神」の御宮が建てられた。

弁財天の小社は、安永九年（一七八〇）及び文政八年（一八二五）に再建された記述が残る。

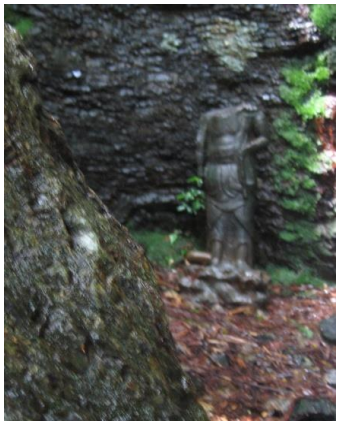
弁天の地に天狗宮、風神雷神が祀られているのは遷宮されたためである。当初から三つの御宮が祀られたのではない。

八　荒沢ノ滝

古賀志山三滝の一つ、荒沢の瀧は背中当山の西側に位置し、この瀧下に「荒沢不動」が祀られた。

「荒沢」は出羽羽黒山の「荒沢寺（こうたくじ）」の構図を摸したもので、古賀志では荒沢（あらさわ）と呼ぶ。

二段の荒沢の瀧は、下段に不動明王が祀られている。



「荒沢不動」の奉納年は不詳であるが、女滝の不動明王と同様石質は古賀志石である。荒沢不動への参道は「東道通り」と呼ばれ、天明元年に普請された。

明治期に、ここの鉄分を含んだ水を竹筒で引いて西ノ沢通りに湯場(温泉は誤り)を造った。現在もその石垣が残っている。

九　大日窟

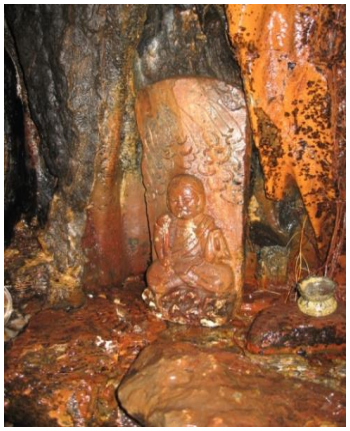
地元では、ここを「大日さま」と呼ぶ。

この大日窟が古文書に登場するのは元禄四年（一六九一）にまで遡る。岩崎村の百姓が狩の途中、この岩窟内を覗き込み、松明をかざして見た光景は、まさに「大日如来の本現ナリ」の三次元の空間であった。尚、民話に出てくる大日如来の石仏は当初から存在しない。

『古檀神社考』には「西ノ穴」として次の記述がある。

「大日如来岩屋ニ現レ玉フハ後シロ姿ナリ」として、この岩窟に畏敬の念を抱いた。この百姓は、元禄十五年（一七〇二）石碑を奉納した。大日窟に多くの参詣者が訪れるようになったのは、享保六年（一七二一），麓の弘蔵院宥清法印が出羽国羽黒山寂光寺より「常火切火免許」を授与されたことに起因する。依って、それ以降、湯殿大権現と称された。

この地に出羽三山の湯殿山が勧請されたのは享保六年である。出羽国湯殿山の崇拝の対象は大日如来である。



出羽国羽黒山の奥の院「荒沢寺（こうたくじ）」には「常火堂」がある。ここ大日窟の前棚に享保六年に「常火屋」が建立されたのは、この配置を模したものだ。

大日窟には湯殿山を勧請する条件がそろっていた。出羽湯殿山の御神体は女陰の岩から温泉が湧き出るが、ここ大日窟の御神体は女陰の岩からは霊泉がわき出る。

出羽湯殿山の「荒沢寺」の「常火堂」には不動明王と地蔵菩薩は不可欠である。ここ大日窟の常火屋にも享保九年（一七二四），地蔵菩薩立像が奉納された。

大日窟への参道は二つある。一つは、権現山を起点とする表参道「湯殿山大権現道」であり、もう一つは、瀧権現への

「馬場通り」から分岐する「東道通り」である。前者は、安永九年（一七八〇）に、後者は、天明元年（一七八一）に整備された。荒沢不動へは、後者の道が近道となった。

芭蕉と曽良の句碑は、幕末期安政四年（一八五七）、弘蔵院第三十四世實應法印が、大日窟への参詣者の道標として奉納したもので、芭蕉の句碑は、「東道通り」の起点即ち瀧大権現の石鳥居の脇に、曽良の句碑は「湯殿大権現道」の石鳥居の脇に立っていた。双方とも昭和期に学校に運ばれた。城山西小に二基の句碑があるのは、そのためである。

湯殿大権現道の起点は権現山である。因みに古賀志村の伝説では、この地にあった山桜の大木を「孝子桜」としていた。創作民話は城山西小の枝垂れ桜にすり替えてしまった。

湯殿大権現道には、天明四年(一七八四)に奉納した明神鳥居がある。同六年（一七八六）には石灯籠も奉納された。明治初期の神仏分離令により湯殿大権現の信仰は急速に廃れたが、境内には、明治期から大正期にかけて、この地で修行していた里山伏の残した留魂碑がある。

付記

電子書籍化のご案内

拙著「日光修験三峯五禅頂の道」が電子書籍化された。「冬峯編」、「華供峯編」、「夏峯編」、「五禅頂編」の四編構成。下記アドレスにて検索。

文責

ＮＰＯ法人

古賀志山を守ろう会理事長

池田正夫

○紀伊国屋ＢｏｏｋＷeb

○シャープ galapagos store

○Ｓony ＲeaderStore

池田正夫　TEL028-635-8641

携帯 090-6795-8178

Ｅmail　mt_kogashi@yahoo.co.jp

ブログ　http://ameblo.jp/mt-masao/